

JR 除草剤で沿線農作物被害 大豆の生育不良相次ぐ 農家は憤り

9/26(水) 9:40 配信



生育不良で縮んだ大豆の葉。後ろは JR 鹿児島線＝福岡県みやま市

JR 九州が福岡県みやま市の JR 鹿児島線の線路にまいた除草剤が飛散し、沿線の約 7 キロの範囲で大豆の葉が生育不良で萎縮する被害が相次いでいることが分かった。沿線の早場米の稲からは非農地用の農薬成分が検出され、地元 JA は早場米の出荷を見合わせている。JR 九州は非を認め、農家への被害補償や見舞金の支払いを検討している。

同社によると、各線で年 2 回程度、専用の作業車両を使って除草剤を散布しているが、農産物の被害が広範囲で発生したのは初めてという。

みやま市の JR 鹿児島線では 8 月 1 日と 7 日の深夜から未明にかけて散布しており、「日中の猛暑で除草剤が揮発し、周辺の田畑に影響した可能性もある」(広報部)とみて原因を調査している。他の沿線自治体や農家からの被害の訴えはないとしている。

JA みなみ筑後(みやま市)によると、8 月中旬、大豆農家から被害が相次いで寄せられたため調査を開始。瀬高駅から渡瀬駅まで全長 7 キロ、線路を挟んで最大 30 メートルの範囲で葉の萎縮を確認した。市と連携して民間検査機関に大豆と稲の葉の残留農薬検査を依頼したところ、稲から微量の農薬成分「ジカンバ」を検出。ジカンバは、JR 九州が散布した非農地用の除草剤に含まれてお

り、農地用には使用されない成分という。

JA 側は JR 九州に検査結果を報告したほか、「安全性が確認できない」として、収穫済みの早場米計 8 トン(約 160 万円相当)を出荷せずに保管している。大豆は 11 月から収穫が始まるが、出荷を見送る農家もあるという。

沿線の農家男性(36)は「私たちは農薬散布の際には、隣の水田や畑に飛散しないように細心の注意を払っている。

JR 九州のいかげんな作業が原因ではないのか」と憤る。

JR 九州は取材に「迷惑を掛けたことをおわびする。原因究明を進め、(被害にも)真摯(しんし)に対応する」と話した。

西日本新聞社